

進捗状況の概要（1 ページ以内）

■1. 組織：事業推進組織「プラットフォーム-円陣-」の構築と自走化（法人設立）へ

- ①体制：長野・富山・石川の3 国立大学・3 県域での産学官連携組織「ENGINE プログラム推進コンソーシアム」を運営。信州大学長を座長とする推進会議（年2 回）を筆頭に、4 つのワーキング・グループ(WG)として「ENGINE カリキュラム検討 WG」「ENGINE キャリア形成イベント WG」「ENGINE 広報戦略 WG」「産学協働人材評価 WG」を開催。加えてほぼ毎週の3 大学運営ミーティング、年度末の「外部評価委員会（年1 回）」などで計 49 回開催し、関係者の意識共有や実施調整等を小まめに行いながら全国に類のない広域型地方創生事業を展開。
- ②連繋：令和5 年度には、地域企業と学生を繋ぐ大規模なキャリア形成イベント「大しごと一く」を3 県で開催（学生参加者総数：817 人、地域企業参加総数：276 人）し、3 県域の行政・地域企業と学生の交流機会を構築。この基盤を活かして地域コーディネーターと連携しながら「課題解決型インターンシップ」や「PBL」を拡大し、地域との連携体制をさらに強化した。
- ③自走：収益事業のプロトタイプとして信州大学で開催する「大しごと一く」を会費制度による運営へ移行。COC+R 事業終了後は、一般社団法人「-円陣-プラットフォーム PF※1」を設立し、自走化へと発展させるため、令和6 年度は登記準備とビジネスモデルの精緻化、3 県域での展開に向けた準備を進めている。（※1：PF にはENGINE プログラム修了生のアルムナイ（同窓会）組織も含む）

■2. 教育：3 ヶ年プログラムの完成、ENGINE ルーブリックを用いた評価とオープンバッジの導入

- ①プログラム：3 ヶ年に渡る ENGINE 教育プログラムが完成（1 年次：リテラシー強化、2 年次：キャリア形成促進、3 年次：実践力強化…計 10 単位 + 大しごと一く）、R6 年度より第2 フェーズ（プログラムの自走段階）に移行した。
- ②学生管理：3 大学共通の受講者ポータル・学修支援システム（ENGINE LMS）と各大学の LMS を併用する方式を採用し、最終的にサーティフィケート発行を行う仕組みが構築された。また、修了者の情報の登録ページを追加し、アルムナイ（同窓会）を運用する基盤を整えた。
- ③学修記録：教育プログラムの効果は、産学連携で開発した「ENGINE ルーブリック」を用いて、期間中定期的に測定を行った。評価は、教員だけでなく、企業評価、学生の自己評価のトライアングル方式で蓄積し、それらをサーティフィケートに反映した。
- ④修了証明：令和6 年2 月に外部評価委員も同席で、第1 期生の修了式を開催し、3 大学長より修了証の授与を行った。令和4 年度外部評価委員会での進言を受け、オープンバッジによる修了証明を発行。学習履歴の見える化・モバイル化・国際化にも対応した。

■3. 点検・評価：自己点検と外部評価による確実な進捗管理の実施

- ①自己点検：ENGINE プログラムのアウトカム（COC+R 事業共通目標）に対してロジックモデルを構築し、インプットからアウトプット、中間アウトカムまで 17 項目の指標をコンソーシアム推進会議で毎年点検。令和5 年度の目標達成率は 76.5%（令和4 年度は 100%）であったが、共通目標「プログラム参加者の地元就職者数」は、125%で達成しており、他の目標値に満たない項目も概ね達成水準に近い値であることから順調に事業が進捗していることが示された。
- ②外部評価：事業開始以来、3 名の専門家（福岡中小企業経営者協会理事、高知大学長、リクルート総研所長）が継続的に参画。令和5 年度は「S」に至る可能性のある「A」との評価を頂いた。

■4. 事業拡大：基幹産業振興に向けた具体的な課題解決事業の創出

- ①共同研究：オプションプログラムとして、交通・観光を中心に3 大学から有志学生が参加できる調査研究・政策提言事業を行政や自治体と実施（松本市、塩尻市、白馬村、岐阜県養老町等）。自走化時の収益事業を想定し、有償の共同研究とした（100 万～330 万円/件）。
- ②インターンシップ：外部コーディネーター（地域 NPO、人材育成を支援団体等）が、地域企業との繋ぎ役や課題収集を担い、課題解決型インターンシップの調整・伴走支援を行った。
- ③情報発信：ENGINE プログラム・各大学のポータルサイトで小まめに情報を発信。また、富山大学による広報誌「NEWS LETTER」の発行、金沢大学によるイベントチラシ作成など ENGINE プログラムの活動を後輩学生や学内だけでなく、地域・企業へ周知し、連携先・連携事業創出に努めた。
- ④企業創新：信州大学・富山大学・金沢大学が実施する首都圏人材を研究員に迎え地域企業の革新に取り組むリカレント学習事業と連携し、受入先になる魅力ある地域企業の創出を並行して実施。

■5. 幹事校業務：採択大学間の連携事業と COC+R ネットワーキング（現在会員：約 1,300 名）

全国シンポジウム/ネットワーキングと採択大学の連絡会議を年2 回開催。地域就職の因果モデル構築と採択大学間での連携カリキュラム（VR 活用）の構築を進めた。